

# 信用生協五十年史 目次

写 真	ii
信用生協五十年史発刊にあたって(佐藤浩之)	ix
はじめに(小関隆志)	xi
目 次	x iv

## 第1部 歴史

第1章 岩手県信用生協通史 (小関隆志)	2
第1節 岩手県信用生協の設立	2
1-1 岩手県信用生協前史1(大正・昭和初期)	2
歴史的系譜／大阪庶民信用組合／上田質庫組合／中ノ郷質庫信用組合／3組合の共通点	
1-2 岩手県信用生協前史2(戦後～1960年代)	5
1950年代の庶民金融／労働質庫／宮崎県信用生協	
1-3 岩手県信用生協設立の背景	8
1960年代の庶民金融／岩手県信用生協設立の意図／労働者福祉運動／信用生協の法的根拠と政府の方針／岩手県の政治状況	
1-4 岩手県信用生協の設立(1969年)	13
設立趣意書／認可と事業開始	
1-5 小括	14
第2節 初期の岩手県信用生協	15
2-1 設立初期(1970年代)	15
1970年代の庶民金融／サラ金禍／初期の貸付事業／金利と返済／貸付事業の顧客層／労済を頂点とするグループ／岩手県民共済会／事務所の移転／1960-1970年代の生協運動	
2-2 サラ金問題の深刻化(1980年代)	22
消費者信用の拡大／貸金業規制／サラ金被害者救済への転換／弁護士会との連携／理事の合意形成／債務者救済活動の展開／競合と生き残り	
2-3 山子金融事件	29
山子金融事件／互助会事業の移管／互助会事業移管の効果	
2-4 小括	33
第3節 多重債務者の救済	34
3-1 消費者救済資金貸付制度(スイッチローン)の創設	34
1980年代末～1990年代前半の消費者金融／盛岡市の消費者保護行政／救済資金貸付制度の背景／救済資金貸付事業の開始と展開／救済資金貸付事業への特化	
3-2 自社ビルへの移転	42
名義貸し事件／20周年記念と県民共済会／自社ビルの建設と移転／役員構成と事業の変容	

3-3 多重債務者救済活動	47
啓発・相談活動の展開／連合会への加盟	
3-4 絶頂期	50
1990年代後半～2000年代前半の消費者金融／絶頂期の岩手県信用生協／3事務所の開設／いわて生活者サポートセンターの設立	
3-5 小括	57
第4節 貸金業法・生協法改正と他県普及	58
4-1 貸金業法改正(小関隆志・角崎洋平)	58
グレーゾーン金利撤廃運動／改正貸金業法／岩手方式／一部の弁護士会などからの批判／改正生協法／「信用生協」新規設立の困難と生活サポート基金の設立／グリーンコープ生協による九州・山口での普及／みやぎ生協での実証実験／生活クラブ生協千葉／テナントをめぐる組織運営の混乱／理事の解任・辞任と総代選挙無効確認訴訟	
4-2 2000年代後半の信用収縮	75
2000年代後半の消費者金融／期末残高の減少／相談対応／生活再建資金制度の創設／事務所の移転	
4-3 青森県への進出	81
八戸市での信用生協設立の動き／県域規制の緩和／「岩手県信用生協」から「信用生協」に／青森県との協定／秋田県での信用生協設立の動き	
4-4 東日本大震災	86
被災者支援／釜石での被災と支援活動	
4-5 小括	88
第5節 生活困窮者支援へ	90
5-1 多重債務問題から貧困・生活困窮問題へ	90
貧困・生活困窮問題の顕在化／多重債務問題の再燃／相談内容の変化	
5-2 生き残りの模索	95
経営実績の低下／剰余金と出資金の確保／理事の交代と高齢者福祉事業の構想／事業所の閉鎖・縮小と開設／職員の大幅削減と生活困窮者自立支援事業／いわて生活者サポートセンターの解散／生き残りの模索／創立50周年と功労賞の受賞／第4次中期計画の策定と新体制発足	
5-3 小括	106
第6節 五十年の歩みをふりかえって	108
6-1 日本の金融排除・多重債務の歴史と信用生協	108
6-2 特異な組織の出現と存続	109
6-3 事業モデルの普及	111
6-4 おわりに	112
参考文献	112

第2章 各論	119
第1節 NPO 法人いわて生活者サポートセンター(佐藤順子)	120
はじめに	120
1-1 第1期から第2期(2002年～2003年)——設立から事業の枠組み形成への模索	122
1-2 第3期(2004年度)——サポートセンター事業の枠組み形成への模索	123
1-3 第4期(2005年度)——子どもの虐待問題への取り組み	123
1-4 第5期(2006年度)——DV 被害者救済資金の創設	124
1-5 第6期(2007年度)——事務局体制の変化・会費の縮減と家計簿診断事業の停止	125
1-6 第7期(2008年度)——くらしとお金の安心相談事業の開始	126
1-7 第8期(2009年度)——くらしとお金の安心支援事業の展開	127
1-8 第9期(2010年度)——東日本大震災の発災と会員収入・寄付金の激減	127
1-9 第10期(2011年度)——パーソナルサポート事業の受託	128
1-10 第11期(2012年度)——パーソナルサポート事業の充実	129
1-11 第12期から第13期(2013年度～2014年度)——被災者支援の取り組みとパーソナルサポート事業の展開	129
1-12 第14期から第15期(2016～2017年度)——生活困窮者自立支援事業の受託	131
1-13 第16期(2018年度)——生活困窮者自立支援相談事業の受託停止とサポートセンターの解散	131
結びにかえて	132
第2節 信用生協の意義・課題・展望——福祉への貢献と地域の支えの必要性(角崎洋平)	134
2-1 信用生協の歴史を振り返って	134
2-2 信用生協の生活相談・貸付事業の特徴と意義	135
生活相談・貸付事業の特徴／生活相談・貸付事業の金融ウェルビーイング面での意義	
2-3 なぜ信用生協の生活相談・貸付事業が、低所得者にフレンドリーな金融サービスたりえるのか	138
低所得者・生活困窮者等に必要な金融サービスの条件／なぜ信用生協が低所得者・生活困窮者等にフレンドリーな貸付事業の担い手たりうるか	
2-4 信用生協の貸付金利と収支構造	145
貸付機関の収支構造／信用生協の貸付金利が高くなる理由／金利を低くするのは誰の責任か	
2-5 おわりに	154

第2部 記録集 .....	157
1. 設立趣意書 .....	158
2. 消費者信用生活協同組合定款 .....	160
3. 信用生協 現在の運営体制.....	179
4. 信用生協 経営状況・貸付実績 .....	183
5. 信用生協 相談件数.....	194
6. 信用生協第4次中期計画 .....	196
7. いわて生活者サポートセンター 設立趣意書.....	204
8. いわて生活者サポートセンター 定款 .....	205
9. 関連文献一覧.....	215
10. 信用生協・いわて生活者サポートセンター 年表.....	218
11. 預託額推移.....	245
12. 協力者・執筆者一覧.....	256
13. DVD 掲載資料目次.....	261